

☆令和6年度 全国学力・学習状況調査について

加古川市立平岡北小学校

6年生を対象に実施された全国学力・学習状況調査では、国語・算数の学力調査と児童質問紙による学習環境や生活状況を知る調査が行われました。その結果の概要をお知らせしますが、この結果をもって、児童の学力全体を評価できるものではありません。本校では、結果を分析し、今後の学習指導や学習環境の改善に生かしていきたいと思ひます。

国語科

平均正答率が全国・県・市平均を少し上回っています。評価の観点別に見ると、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」とともに全国・県平均を少し上回っていました。

出題の趣旨に沿って分析していくと、「知識・技能」の観点の中で正答率が低いものとして、言語の特徴や使い方に関する事項の「漢字を文の中で正しく使うことができる」などが挙げられます。しかし、「話し言葉と書き言葉との違いに気付くことができる」という点に関しては、かなり正答率が高かったです。「思考力・判断力・表現力」の観点では、「書くこと」において、全国・県・市平均を下回っていました。特に「目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる」という点が正答率が低かったです。さらに、「読むこと」においては、「登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができる」という点の正答率は低くなりました。しかし、「人物像を具体的に想像することができる」という点において正答率はかなり高かったです。「話すこと」「聞くこと」においては概ね正答率は県や全国平均より高かったです。

児童質問紙（国語科に関するもの）

児童質問紙調査より 主に、百分率（％）は「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童の割合

「国語の勉強は大切ですか」（92％）「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思ひますか」（90.2％）という質問に対して殆どの児童が、肯定的な回答をしていて、国語の学習の意義を自覚しながら、学習に取り組んでいます。しかし、「国語の授業内容はよくわかりますか」（83.2％）と「国語の勉強は好きですか」（56.3％）という質問には、肯定的な回答をしている児童の割合が県・全国平均を下回り、今後の課題と考えます。

これらの結果から国語科では、児童の興味・関心を大切にしたい授業の構成を工夫し、自分の考えを表現することが楽しいと感じられるような場の設定を増やしていきます。また、漢字の書き取り練習にも工夫を凝らし、ただ書く回数を増やすのではなく、漢字の成り立ちや意味などにも触れながら丁寧に文字を書くことを指導したいと思ひます。国語の学習の意義を自覚している児童が大多数を占め、人間関係を作るうえでもコミュニケーションの大切さに気付いているので、授業においては言葉の表現の面白さや豊かさを感じさせながら、文章を正しく読み取れる力を伸ばすためにじっくりと文章を読むことを指導していきます。さらに、作文などでは事実と意見を区別しながら、丁寧に文章を書いていくことと書いた文章を読み返して推敲する習慣を付けさせたいと考えています。

算数科

平均正答率が全国・県・市平均を上回っています。評価の観点別に見ると、「知識・技能」も上回り、さらに「思考力・判断力・表現力」については、全国・県平均をかなり上回っています。領域別では、すべての領域で全国・県の平均を上回り、特に「変化と関係」「データの活用」の正答率はかなり高かったです。出題の趣旨別に見ていくと「思考力・判断力・表現力」の観点において、「数と計算」で「計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述できる」という点のみ、全国・県平均を下回りましたが、それ以外の問題は殆ど上回っていました。中でも、「データの活用」においては、「折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できる」という問題がかなり高い正答率となっていました。

児童質問紙（算数科に関するもの）

（児童質問紙調査より 主に、百分率（％）は「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童の割合）

「算数の勉強は大切ですか」（92.8％）「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思ひますか」（97.3％）「算数の問題の解き方わからないときには、あきらめずにいろいろな方法を考える」（89.3％）という質問に、殆どの児童が、肯定的な回答をしていて、算数の学習の意義を自覚しながら、学習に取り組んでいます。「算数の授業内容はよくわかりますか」（81.3％）という質問には、全国・県と同程度で肯定的な回答をしている児童の割合が高く、学習したことをよく理解できたと感じています。しかし、「算数の勉強は好きですか」（55.4％）という問いにたいしては、他の質問に比べて、肯定的な意見の割合が、県・全国平均を下回り、低いことが今後の課題です。

これらの結果から算数科では、3年間取り組んだ協同的探究学習の成果がしっかりと表れています。特に思考・判断・表現の能力の伸びがよく見られ、さらに知識・理解においても相乗効果となって伸びが感じられます。問題を解決するために見通しをもち、筋道を立てて考えを進め、言葉や数、式、図、表、グラフを用いて、考え方や解決方法を理由付けしながら表現するという協同的探究学習をさらに継続し、児童が興味を持って取り組める課題設定や、問題に対していろいろな解き方ができるような提示の仕方や発問の工夫をしていきます。そして、「できた」「わかった」「こんな考えもできる」「みんなに説明できた」といった成功体験を重ねることで、算数の学習が楽しいと感じられるようにしていきたいと思います。

生活実態調査

(児童質問紙調査より 主に、百分率(%)は「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童の割合)

《生活習慣》

「朝食を毎日食べていますか」92% (全国・県平均とほぼ同等) 「毎日、同じぐらいの時刻に寝ていますか」84.9% 「毎日、同じぐらいの時間に起きていますか」94.7% (全国・県平均を上回る)

一日の生活リズムが身に付いており、安定した家庭生活をおくれている児童が多いです。寝る時刻が不規則になっている児童には、学校でも睡眠の大切さについて指導していくとともに、ご家庭での声掛けをお願いします。

《自尊感情》

「自分にはよいところがありますか」83.9% 「人の役に立つ人間になりたいですか」95.6% (ほぼ、全国・県・市平均を上回る) 「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることは、ありますか」91.1% (県・全国平均と同等) 「将来の夢や目標を持っていますか」72.4% (県・全国平均をかなり下回る)

児童の中には自己肯定感や向上心が育っていると考えられます。今後も、失敗を恐れず挑戦していくたくましさや育てていくことが、本校が目指すところであり、体験的学習の充実やキャリア教育などを通じて、将来の夢や目標に向かって積極的に行動する児童を育てていきたいと考えます。

《規範意識・思いやり》

「授業や学校生活では、友だちや周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」94.6% 「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」97.3% (全国・県平均を上回る) 「人が困っているときは、進んで助けていますか」91.1% (全国・県平均を少し下回る)

この結果からも規範意識の高さが伺えており、今後も道徳科を中心に全教育活動を通して、心の教育に力を入れていきます。

《学校生活》

「友達関係に満足していますか」91.1% 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」93.7% 「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」68.8% (全て全国・県平均を上回る)

「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」84.9% 「学校に行くのは楽しいと思いますか」75.1% 「自分と違う意見について考えるのは楽しいですか」73.2% (全国・県平均を下回る)

児童はおおむね学校での生活を楽しんでいるようで、今後もより良い人間関係作りと児童の自主性を大切にした教育活動を行っていきます。さらに、不安を抱えていたり、自信をもちにくかったりといった児童へのきめ細やかな声掛けも心掛けて、寄り添っていききたいと思っています。

《家庭学習》

「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、一日どれぐらいの時間、勉強をしますか」

（学習塾等の時間や家庭教師に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間を含む）

3 時間以上 9.8% 2 時間以上 3 時間未満 17.9% 1 時間以上 2 時間未満 25.9%

30 分以上 1 時間未満 25.9% 30 分未満 14.3% 全くしない 6.3%

家庭における学習習慣が身についている児童が多いです。さらに、自分で計画を立てて学習するなど、今後も主体的に学習に取り組む姿勢を育成していけるよう、課題の出し方などを工夫していきたいと考えています。

《放課後や週末の過ごし方》※複数選択

①「家でテレビや動画を見たり、ゲームをしたり SNS を利用したりしている」71.4%

②「友だちと遊んでいる」60.7% ③「家族と過ごしている」52.7%（③のみ県・全国平均をかなり下回る）

④「家で勉強や読書をしている」47.3% ⑤「スポーツをしている」46.4%

⑥「習い事をしている（スポーツを除く）」38.4% ⑦「学習塾などで勉強している」28.6%

「それ以外の活動」5.4% （県・全国平均とほぼ同程度かやや下回る）

児童によって様々な過ごし方をしています。この結果を参考に、今後の家での過ごし方について、ご家庭で話題にしていだけたらと思います。

《地域や社会への貢献》

「地域や社会をよくするために何かしたいと思いますか」83.9%（全国・県平均と同等）

この結果から、地域や社会とのつながりを意識し、世の中の役に立ちたいと考えている児童が多く見られます。この気持ちがこれからも持続し続けられるよう、地域や社会とつながりを意識した活動を学校においても大切にしていきたいと思います。

《ICTを活用した学習》

『学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器を使う事について』

「友だちと考えを共有したり比べたりしやすい」92%「友だちと協力しながら学習を進めることができる」94.7%

「画像や動画、音声を活用することで、学習内容がよくわかる」94.7%「自分の意見や考えを分かりやすく伝えることができる」（88.4%）「分からないことがあった時には、すぐに調べることができる」（96.5%）

「楽しみながら学習を進めることができる」（91.1%）

「5 年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用しましたか」

ほぼ毎日 7.1% 週 3 回以上 28.6% 週 1 回以上 41.1% 月 1 回以上 15.2% 月 1 回未満 8.0%

（毎日から週 1 回以上の頻度は、県平均と同程度、全国平均を下回っている）

「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」74.1%（全て全国・県・市平均を上回る）

一昨年度から、クロームブックが導入され、児童の使用頻度も増し、児童の ICT 活用能力も向上しています。さらに、ICT を活用した学習活動において、全ての項目で肯定的な意見が県・全国平均をかなり上回っています。しかし、ICT 機器の活用が児童の興味を喚起し、学びを深めさせると同時に、過度な ICT 機器の活用は視力低下や姿勢の悪さ、実体験の減少なども生み出すなど課題も含んでおります。そのあたりをしっかりと吟味し、使用時の情報モラルについても触れながら、さらなる有効活用を目指したいと思います。ご家庭に置かれましても使い方において、ルールを作っておられるご家庭が多く、今後も使い方について児童と一緒に考えていだけたらと願っております。

《英語科の学習》

「英語の勉強は大切だと思いますか」 92.8%（県・全国平均と同等） 「英語の授業の内容はよくわかりますか」 74.1%（全国・県平均を少し下回る） 「英語の勉強は好きですか」 58%（全国・県平均をかなり下回る）

殆どの児童が英語学習の意義を理解して、学習に取り組んでいます。ただ、高学年になると人前で英語を話すことを恥ずかしいと思ったり、学習内容が難しくなってきたと感じていたりする児童も増えてきています。今後も、ALT（外国語指導助手）と専科教員が連携して、学習内容を工夫しながら、楽しく学習が進められるようにしていきたいと考えます。

《理科の学習》（今年度より質問紙に追加）

「理科の勉強は好きですか」 83.9%（県・全国平均と同等）

「自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり、問題を見出したりすることがあります」 89.3%（県・全国平均をかなり上回る）

「理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか」 83.%（全国平均を少し下回る）

理科の学習は実験や観察に興味を持って取り組む児童が多いです。そこで不思議に思ったことを出し合って、考える事も楽しいと感じています。ただ、不思議に思ったことを確かめる方法を自分から考えたり、結果から考察したりすることを苦手に思っている児童も多いので、実験の方法を工夫させるための手立てや考察をするための思考のプロセスを示すなどをして、理科における思考力を伸ばしていきたいと思います。

《主体的・対話的で深い学び》

「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか」 74.1% 「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか」 88.4% 「わからないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」 88.4%

（全国・県平均を上回る）

「5年生までに受けた授業は、自分に合った教え方、教材、学習時間になっていましたか」 75.9%

（全国・県平均をかなり下回る）

「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いますか」 84.8%（全国・県平均をかなり上回る）

「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法決めていますか」 84.9% 「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか」 84.8% 「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか」 (84.8%)（全国・県平均を上回る）

「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」 86.6%（県平均は上回り、全国平均と同等）

「学級活動」「総合的な学習」「特別の教科道徳科」の中で、話し合い活動の意義を理解して、自分の考えをもち、さらにそれを表現する方法についても工夫をするようになってきています。今後も、自分の考えを友達と共有し合うことで、さらなる考えに深めていけるような学習活動を繰り返し行うことで、主体的で対話的な深い学びの力を伸ばしていきたいと考えます。3年に渡って取り組んできた算数科における協同的探究学習の成果から、今年度からは算数科に限らず他教科においてもその力が伸ばせるように取り組んでいます。